

留 学 報 告 書

記入日:2015年6月6日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ネブラスカ大学オマハ校 現地言語: University of Nebraska at Omaha
留学期間	2014年8月～2015年5月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2015年5月16日
明治大学卒業予定年	2016年3月



留学先大学について			
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他		
学年暦	1 学期:9月下旬～12月中旬 2 学期:1月上旬～5月上旬		
学生数	約 15,000 人		
創立年	1908 年		
留学費用項目	現地通貨 (アメリカドル)	円	備考
授業料		円	協定留学なので留学先の大学に払う必要なし
宿舍費	5,300	600,000 円	
食費	2,700	320,000 円	
図書費	180	34,000 円	教科書など
学用品費	10	1,900 円	
教養娯楽費	2,700	322,000 円	
被服費	100	19,000 円	
医療費		円	
保険費	782	93,000 円	形態:
渡航旅費	2,600	300,000 円	
雑費	290	34,500 円	
合計	14,662	1,724,400 円	

渡航関連

渡航経路: 成田→デンバー(アメリカ)→オマハ

渡航費用

チケットの種類 往復(復路変更可能)
 往路 _____
 復路 _____
 合計 約30万円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

株式会社イン・ソリューションズ

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍など)

大学の寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数4人)

3)住居を探した方法:

大学から送られてきた案内

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

四人でリビングをシェア、2人でバスルームをシェアしますが、ちゃんと個室があるのでとても快適でした。アメリカ人のルームメイトがいるとリビング用品やキッチン用品は彼らが持っているのでわざわざ買う必要がありません。掛布団やシーツ、枕はないので、着いてすぐに手に入れましょう。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？ 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

- 利用する機会が無かった
 利用した：大学内の医務室

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

問題は特になし

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

大学のオリエンテーションと友達から聞いた

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

学内、寮内ともに WIFI 接続は良好

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？

クレジットカードとキャッシュパス(プリペイドのようなもの)の利用

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

特になし。アジアマーケットというものがあつたので、そこでたいいの物は手に入る。

進路について

1) 進路

- 就職 進学 未定 その他：

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

就職予定。選択肢が就職しなかった。

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。
(例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

私は三年生で留学をしたので、帰国後すぐに就職活動を始めなくてはいけませんでしたが、留学前に不安が無かったといたらうそになりますが、留学しなくても就職がうまくいかない人はいますし、留学してもうまくいく人もいます。大事なのは、留学しているかどうかではなく、今はネットもありますし留学中でも情報を集めることができるので、本人の努力ではないかと考えています。就活への不安を言い訳に留学を諦めなくなかったので、私は留学を決めました。しかし、まだ就活の結果が出てないので偉そうには言えませんが。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 24 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
INTRO TO INTL RELATIONS	国際関係学入門
科目設置学部・研究科	Political Science
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Lana Obradovic
授業内容	色んな国の政治、外交のことや、戦争からの平和体制やテロ、紛争などの国際関係の問題などを幅広く学べます。
試験・課題など	試験は3回でほぼ選択式、レポートが2つあります。1つは2~3枚程度、もう1つは5~7枚程度。
感想を自由記入	先生はとても優しく、質問にも気軽に答えてくれます。パワーポイントはほとんど使いませんが、例を挙げるなどわかりやすく話してくれます。試験前にはスタディーガイドという試験のポイントが書かれているものがもらえますし、問題も勉強すればそんなにむずかしくないの、試験はそんなに不安ではありませんでした。国際関係や国際問題に興味がある人は、ぜひ取った方が良いです。私はレポートで難民について調べて書きましたが、とてもおもしろかったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
INTRODUCTION TO BLACK STUDIES	ブラックスタディー入門
科目設置学部・研究科	ブラックスタディー
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Nyunda Rubango
授業内容	黒人の文化や歴史。特に、アメリカ大陸での奴隷、公民権運動など。
試験・課題など	試験は3回で記述式、レポートは2つありました。毎回、教科書を読んでいく。たまに、課題のビデオを見ておく。
感想を自由記入	最初は先生のなまりも強くて、何を言っているのかわからない部分も多かったです、次第に彼の英語にも授業スタイルにも慣れていきました。先生が投げかけた質問に積極的に答えている学生もいましたが、ディスカッションは特にありませんでした。試験は全部記述なので、答えるのは難しかったです。しかし、採点がやさしかったのか、自分が思ったよりは点数をもらえました。先生が用意したビデオを観る機会が何回かあったのですが、私にはぐるかったり生々しかったりした映像が多かったです。日本人にはあまりなじみのない映像だと感じました。しかし、日本では中々学べないことだと思うので、受けるのはお勧めです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
GENRE STUDIES: POETRY DRAMA		ジェンダー研究: 詩と演劇	
科目設置学部・研究科	英語		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Bobby Juan Vasquez		
授業内容	ショードラマ、詩、映画、舞台などを通して、男と女の役割などについて学ぶ		
試験・課題など	試験の代わりにレポートが3回、ショートレポートが数回。		
感想を自由記入	詩や映画を観ることが好きな人には楽しい授業ではないかと思います。読んだり観たりしたものに対して、先生がいくつか質問を用意していて、生徒がどんどん意見を言うという形でした。私は深く考えながら映画を観たことがなかったので、他の学生の考えが聞けたのは良かったです。レポートは、授業内で扱った題材について自分で分析し、まとめるというものだったので、とても難しかったです。しかも、先生は英語の授業も教えていたためか、コメントも多く書いてくれましたが採点も厳しかったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
INTRO TOPS IN WOMEN'S STUDIES		女性学入門	
科目設置学部・研究科	ジェンダースタディー		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	オンライン		
授業時間数	1週間に 分が 回		
担当教授	Karen Falconer Al-Hindi		
授業内容	アメリカでの女性の家庭・社会の中での役割の変化や歴史。その時代の社会や文化がどうその役割に影響を与えたか。		
試験・課題など	試験代替りのレポートが3つ。毎週10個ぐらいの質問に答える。		
感想を自由記入	オンラインの授業だったので、普通の講義形式とは違い、最初は慣れませんでした。しかし、オンラインにはオンラインの良いところがありました。それは、自分のペースでできることと、自分の意見を必ず言えることです。普通の授業だと発言するにはすぐに先生や他の学生の言っていることを理解し、すぐに反応しなくてはなりません。授業についていくことに必死で、なかなか授業中に発言はできなかったのですが、オンラインで全部の質問に答えて、他の学生の意見も見ることができ、それに対する自分の意見も述べることでできたので、とても良かったです。ただ、毎週小レポートをたくさん書いているようで、他の授業よりも負担が大きかったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
BLACK WOMEN IN AMERICA	アメリカの黒人女性
科目設置学部・研究科	ブラックスタディー
履修期間	春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Margaret Annette Jones
授業内容	アメリカにおける黒人女性の、社会的・経済的・政治的地位の向上、自由や平等を手に入れるための取り組みを学ぶ。
試験・課題など	小テストが数回。プレゼン1回。エクストラポイントのレポート数回。
感想を自由記入	ディスカッションが多い授業でした。クラスの学生も知識が多い方が多く、さらに授業を深く学べたと思います。授業の時間を2回ほど使って、アメリカの給与交渉について実践を交えて学びました。給与の男女差やアメリカの平均給与なども学べました。プレゼンは、1人15分ほどでそれぞれ自分のテーマについて他の学生に教えるという形でした。一方的なプレゼンではいけなく、クイズや穴埋め問題などをプレゼンに組み込んでいました。普通のプレゼンとは少し形式が違ったのでとても緊張しましたが、他の学生たちが温かく見守ってくれていたため、無事出来ました。終わってみたら、いい経験になったと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
INTRO TO POLITICAL SCIENCE	政治学入門
科目設置学部・研究科	政治
履修期間	春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Lana Obradovic
授業内容	アメリカ内・国際的な政治の考え、歴史、行動などの基礎的なこと
試験・課題など	試験が3回とレポート3つ
感想を自由記入	秋学期に取っていた授業と同じ先生だったので、試験やレポート、授業の進め方などもわかっていたので、とてもやりやすかったです。国際関係学の授業と内容がかぶっている部分もあったので、事前に内容がよくわかっていて、理解も早かったです。私は先に国際関係学の授業を取ってしまったのですが、政治学の授業を先に取っていた方がもっと理解を深められたのではないかと思います。レポートのうち2つは授業で観たビデオについての考察だったのですが、量も2枚程度でしたし、先生が質問を用意してくれていたため、とても書きやすかったです。最終レポートは5~7枚と量が増えますが、自分の好きなことについて書けるので、大変ではありますがとても楽しいし、終わった後の達成感が大きいです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
INTRODUCTN TO HUMAN GEOGRAPHY	人文地理学入門
科目設置学部・研究科	地理
履修期間	春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に160分が1回
担当教授	Leigh Anne L Opitz
授業内容	人文地理学とは何なのか。人や物の移動、言語、宗教、環境との関係などを地理学的に考える
試験・課題など	試験が3回と小レポートが毎週
感想を自由記入	週1の授業なので160分と長かったのですが、間に休憩がありますし、グループワークやクイズがあるので、そこまで長くは感じません。地理の観点から物事を見ていくのですが、トピックは言語、民族、宗教、農業、都市・郊外化など、様々な分野の基本的な知識を学べるのでとてもお勧めです。毎週小レポートがあり、それが少し大変ですが、1枚程度と短いですし、ビデオを観たり実際に体験したことを書いたり様々な形があります。そして、授業の理解をさらに深めることができるので良かったです。授業はパワーポイントを使っていてわかりやすいですし、試験もマークシート形式で、スタディーガイドに沿って勉強すれば大丈夫です。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
INTRO LATINO/LATIN AMER STDS	ラテンアメリカ入門
科目設置学部・研究科	ラテンアメリカ
履修期間	春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Jasney E Cogua-Lopez
授業内容	ラテンアメリカの文化・経済・政治・社会の基本的な知識を学ぶ
試験・課題など	試験が1回、レポートが3つ、ポスタープレゼンテーションが1回
感想を自由記入	授業はパワーポイントを使っているのですが、先生が話すのも次のスライドにいくのも速く、ノートを取ったり授業内容を理解したりするのが大変でした。先生は学生が質問・発言するのが大好きで、とても活発なクラスだったと思います。グループワークも2、3回あり、学生同士が意見をぶつけ合っていました。試験はノート持込み可だったので、しっかりまとめて、勉強をすれば大丈夫です。試験前にはパワーポイントもアップしてくれるので、復習もしやすいです。レポートは自分の好きな国の社会問題について調べて書くという形でした。内容の形式は決められていたのでそれに沿って書けばよかったです。5枚と量もあったので難しかったです。学期末のポスタープレゼンテーションは、クラスメイトとペアになり作成しました。お互い担当を決めて作成したのですが、最終的なまとめや発表の時など、ペアの子にとっても助けてもらいました。ペアワークは集まったり互いの意見をすり合わせたりと大変なこともありましたが、いい経験になりました。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2013年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	留学相談 協定校留学の申込み・面接・結果発表
2014年 1月～3月	UNO(留学先)に出願、受理 学内寮の申込み
4月～7月	ビザの取得 航空券購入 履修登録
8月～9月	履修登録(最終) 授業開始
10月～12月	ハロウィーン、中間試験、秋休み 感謝祭、期末試験 冬休み。クリスマス
2015年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	留学したいという気持ちは大学に入学する前からありましたし、国際日本学部を選んだのも、留学するのに良い環境だと思ったからです。しかし入学後、日本でも英語は学べ、留学生と交流もできることがわかり、留学するか迷っていました。なので実際に留学した先輩の話の聞いたり、留学を勧めている方の話を聞いたりしました。そして留学相談に行き、具体的に自分は留学先で何をしたいのか、なぜ日本ではなくわざわざ海外に行くのかを考え話したことで、留学するという気持ちが固まりました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語彙は知っていて損はないので、なるべく多くの単語を覚えておくと良いです。その国のドラマや人気のスポーツ、音楽をチェックしておくと思えます。話題もできますし、知らないとただ聞いているだけで話についていけないからです。そして、日本のことも聞かれるので、日本の文化や人気なものなどを知っておくだけでなく、自分はどう思うかなどの意見も持つておくといいです。また、自分の意見を述べる時にはなんとなくではなく、理由をしっかりと持つことも大事だと感じました。絶対になぜそう思うのか聞かれるからです。すぐにできることではないので、日ごろから習慣づけておくと良いです。
この留学先を選んだ理由	留学に行っていた先輩が英語の勉強に集中できるから田舎を勧めていたからと、日本人が少なそうだったからです。英語を勉強するために留学したので、なるべく日本人から離れたいと思っていました。都市の学生は忙しくてあまりかまってくれないと聞きましたし、周りに遊ぶ場所が多いと勉強にあまり集中できないかなと心配したのも理由のひとつです。また、自分が勉強したかった女性学やジェンダーの学部と授業があったからです。
大学・学生の雰囲気	キャンパスはこじんまりとしていて、教室移動が楽でした。寮から一番遠い校舎まで10分程度で、すぐに移動できたのはとても良かったです。大学の雰囲気ものんびりしていて、落ち着いていたと思います。留学生もたくさんいたので、特に偏見を持たれることも差別をされることもなく、フレンドリーに接してくれました。日本に興味を持っている学生もいて、積極的に話しかけてくれたり、日本のことを聞いてきたりしました。また、留学生だとわかると、気軽に質問して優しく勉強も手伝ってくれる学生もいました。
寮の雰囲気	留学生と正規入学の学生が同じ部屋になったりするので、アメリカ人とも交流が持ちやすいと思います。また、4人でシェアしていたので、友達の部屋に遊びに行ったりルームメイトを紹介したりしてもらうことで、友達が増えます。キッチンが部屋にあったので、友達を呼んで料理を作ったりお菓子を作ったりしました。寮長たち主催のイベントが月2, 3あったので、寮に住んでいる学生と交流できる機会もありました。
交友関係	私は人見知りをしてしまってなかなかすぐには友達が出来なかったのですが、仲良くなった子に友達を紹介してもらおうという形で、新しい友達が増えていきました。車がないとどこにも行けないので、買い物に行くときは友達に頼っていましたが、レポートのチェックをってもらうこともありました。スポーツをしたりお菓子を作ったり、英語の質問をしたり、様々なことをしました。誘われるのを待っていても疎遠になってしまうことに気付いたので、自分から連絡を取ってご飯に行ったり会ったりと誘うようにしました。
困ったこと、大変だったこと	留学中に一番悩んだことは語学力の足りなさです。日々向上してはいたと思うのですが、自分に対する要求も上がっていくので、満足することはありませんでした。たとえば、レポートを書く時や言いたいことを言いたい時に、どう表現したらいいのかわからなくて、じれったい思いをしたことが何回もありました。また、1対1で話す時は相手もゆっくり話してくれたりわからなかった所を聞き返したりできたのでいいのですが、グループで話す時は私がわからなくてもどんどん話が進んでいくので、何も言えなくなってしまいました。しかし、最後の方には、彼らが普通に話すスピードにも慣れたので、話に入りやすくなりました。
学習内容・勉強について	授業では、発言したりディスカッションをしたりする機会が多く、他の学生の意見をたくさん聞くことができました。たまに何のことを話しているのかわからない時があり、歯がゆい思いもしましたが、わからなかった単語を辞書やネットで調べることで、あの時何を話していたのかわかるということがありました。また、なじみのない言葉だと先生が板書してくれるので、それをメモしてあとで調べることもありました。先生たちはとても親切で、わからないことがあったとき質問すると、丁寧に答えてくれます。また、ライティングセンターというところでは、レポートなどをチェックしてもらえ、文法や単語の間違いを正してもらえます。とても良かったです。

課題・試験について	<p>毎回何十ページもの教科書を読んでいかないといけないのは大変でした。また、レポートや試験も定期的であり、大体提出時期や試験時期などがぶるので、その付近はとても忙しくなりました。私は基本的に自分の部屋で一人で勉強していたのですが、春学期はモチベーションが上がらない時があり、そういう時は図書館に行き、友達と一緒に勉強することもありました。試験内容は基本的に授業で習ったことの復習だったので、試験前にノートを見直して、まとめ直したのが効果的でした。レポートは、自分で調べて考察を書くという形がほとんどだったので、自分が興味のあることをさらに知ることができたので、大変ではありましたがとても良かったです。</p>
大学外の活動について	<p>私が留学した先のオマハ市は、静岡市と姉妹都市でした。そのため、日本文化を紹介する機会が多々ありました。静岡とはなんのゆかりもなかったのですが、同じ日本ということで、ボランティアとして参加しました。ソーラン節を踊ったり折り紙を教えたり、浴衣の着付けをしてあげたりしました。この活動を通して、自分が身に着けたものが役に立って嬉しいという気持ちと、多くの人が日本に興味を持ってくれていることが知れて良かったという気持ちになりました。</p>
留学を志す人へ	<p>大きな期待をしすぎない。自分の力量を把握する。この2点が大事ではないかと思いません。留学前は期待に満ち溢れていることでしょう。それが悪いというわけではなく、自分が日本にいて日本語でできないことが、留学先ですぐにできるなんてことはありません。自分は何ができてどうということが苦手なのか、それがきちんとわかっていれば、理想と現実のギャップに落ち込むことは少ないと思います。また、違う国、違う文化に行くので、自分の考えと違って当たり前です。その違いを納得する必要も賛同する必要もないと思いますが、受け入れましょう。自分との日本との違いを楽しむことができれば、留学生活がさらに充実したものになるのではないかと思います。</p>

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	洗濯	授業	日本語 クラスへ 参加	洗濯	自習
			授業				
午後	授業	自習	授業	自習	友達と遊ぶ	友達と遊ぶ	友達と遊ぶ
夕刻	運動		勉強会	運動			
夜	自習	授業					